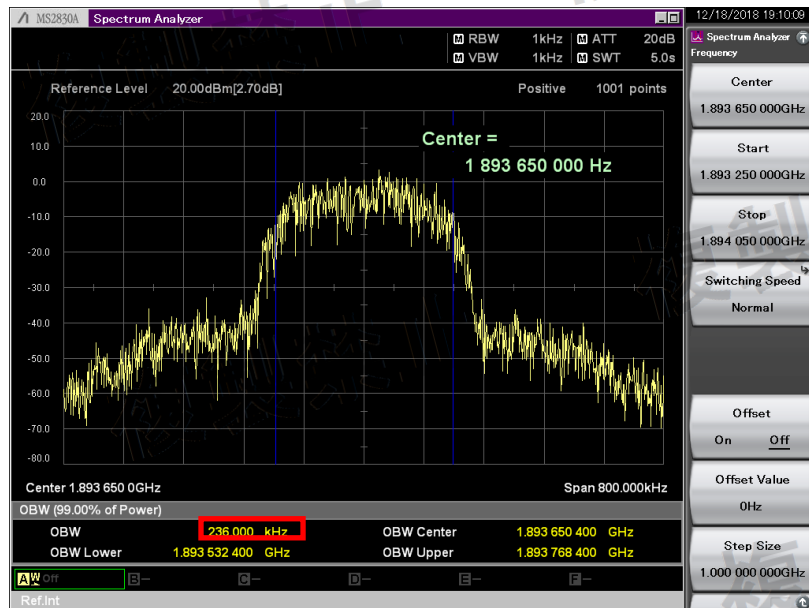


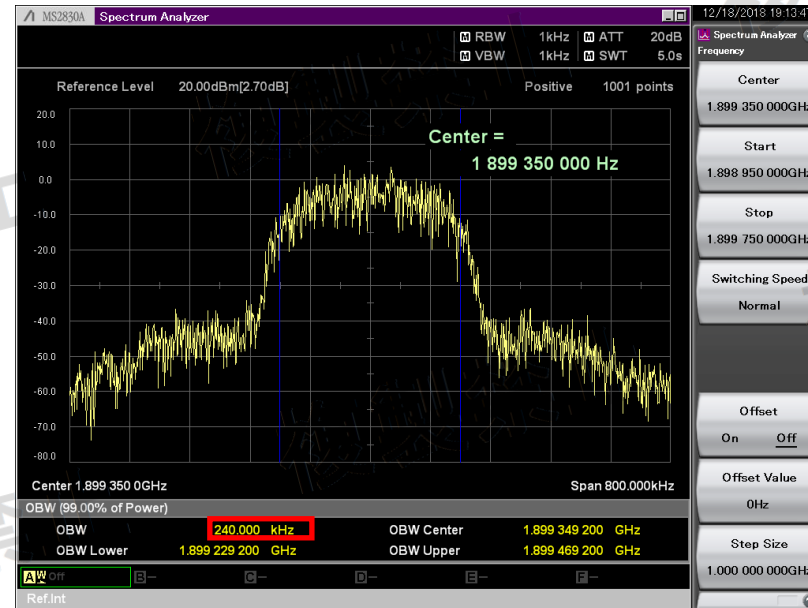
測定波形(常圧)

①占有周波数帯幅

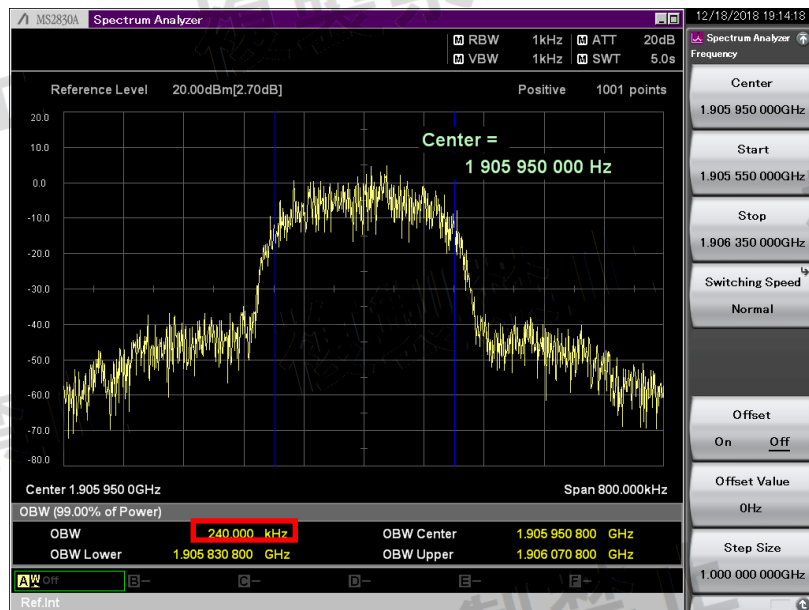
試験周波数：1893.65 MHz



試験周波数：1899.35 MHz



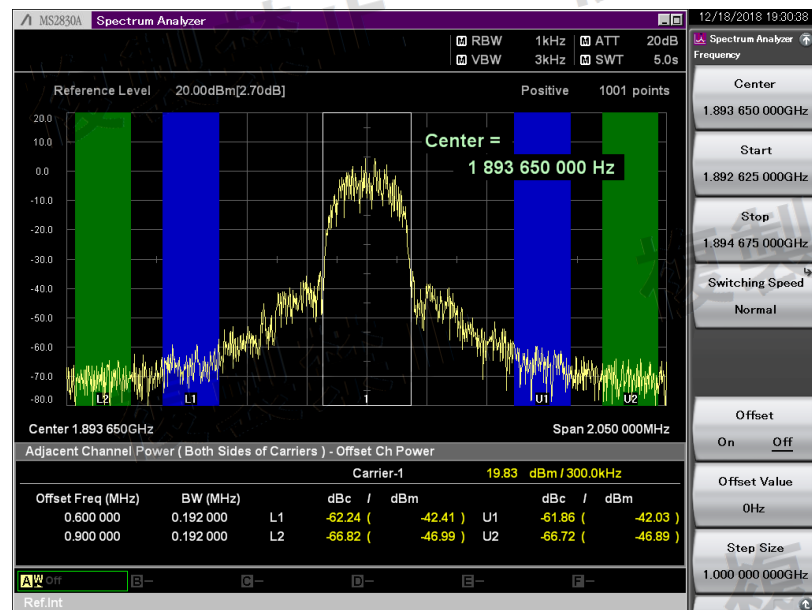
試験周波数：1905.95 MHz



測定波形(常圧)

②隣接チャネル漏洩電力

試験周波数：1893.65 MHz



掃引周波数幅 300kHz でのキャリアの電力が 19.83dBm の為、
各隣接チャネル漏洩電力比は以下となる。

-600kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力比：19.83dBm-(-42.41dBm) = 62.24dBc

+600kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力比：19.83dBm-(-42.03dBm) = 61.86dBc

-900kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力比：19.83dBm-(-46.99dBm) = 66.82dBc

+900kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力比：19.83dBm-(-46.89dBm) = 66.72dBc

予め測定した空中線電力に+9dB(8 倍)を加えた値から、隣接チャネル漏洩電力比を引いて nW 表示とすると以下となる。

-600kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力：10.04dBm(=10.1mW)+9dB-62.24dBc = -43.20dBm = 47.86nW

+600kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力：10.04dBm(=10.1mW)+9dB-61.86dBc = -42.82dBm = 52.24nW

-900kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力：10.04dBm(=10.1mW)+9dB-66.82dBc = -47.78dBm = 16.67nW

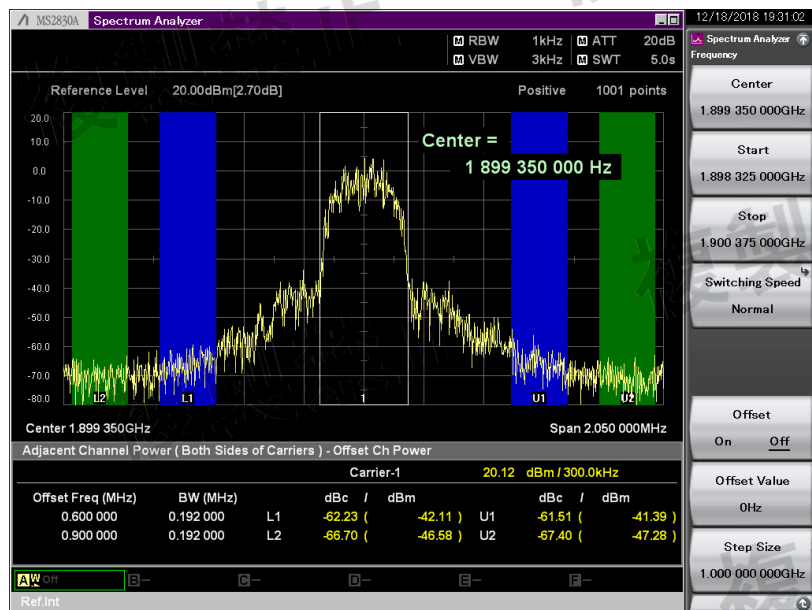
+900kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力：10.04dBm(=10.1mW)+9dB-66.72dBc = -47.68dBm = 17.06nW

よって、±600kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力は **52.24nW(MAX)**、
±900kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力は **17.06nW(MAX)**

測定波形(常圧)

②隣接チャネル漏洩電力

試験周波数：1899.35 MHz



掃引周波数幅 300kHz でのキャリアの電力が 20.12dBm の為、
各隣接チャネル漏洩電力比は以下となる。

-600kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力比：20.12dBm-(-42.11dBm) = 62.23dBc

+600kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力比：20.12dBm-(-41.39dBm) = 61.51dBc

-900kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力比：20.12dBm-(-46.58dBm) = 66.70dBc

+900kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力比：20.12dBm-(-47.28dBm) = 67.40dBc

予め測定した空中線電力に+9dB(8 倍)を加えた値から、隣接チャネル漏洩電力比を引いて nW 表示とすると以下となる。

-600kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力：10.13dBm(=10.3mW)+9dB-62.23dBc = -43.10dBm = 48.98nW

+600kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力：10.13dBm(=10.3mW)+9dB-61.51dBc = -42.38dBm = 57.81nW

-900kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力：10.13dBm(=10.3mW)+9dB-66.70dBc = -47.57dBm = 17.50nW

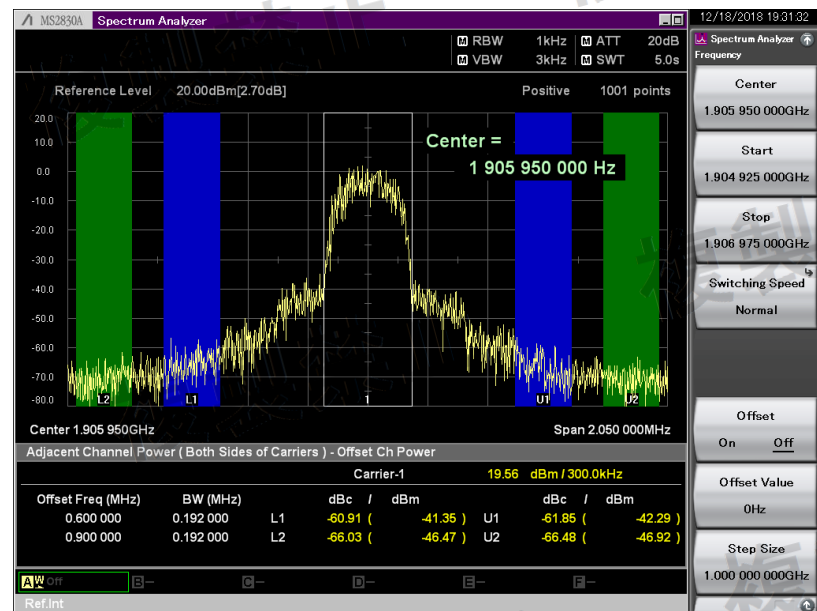
+900kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力：10.13dBm(=10.3mW)+9dB-67.40dBc = -48.27dBm = 14.89nW

よって、±600kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力は **57.81nW(MAX)**、
±900kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力は **17.50nW(MAX)**

測定波形(常圧)

②隣接チャネル漏洩電力

試験周波数：1905.95 MHz



掃引周波数幅 300kHz でのキャリアの電力が 19.56dBm の為、
各隣接チャネル漏洩電力比は以下となる。

-600kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力比：19.56dBm-(-41.35dBm) = 60.91dBc

+600kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力比：19.56dBm-(-42.29dBm) = 61.85dBc

-900kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力比：19.56dBm-(-46.47dBm) = 66.03dBc

+900kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力比：19.56dBm-(-46.92dBm) = 66.48dBc

予め測定した空中線電力に+9dB(8 倍)を加えた値から、隣接チャネル漏洩電力比を引いて nW 表示とすると以下となる。

-600kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力：10.21dBm(=10.5mW)+9dB-60.91dBc = -41.70dBm = 67.61nW

+600kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力：10.21dBm(=10.5mW)+9dB-61.85dBc = -42.64dBm = 54.45nW

-900kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力：10.21dBm(=10.5mW)+9dB-66.03dBc = -46.82dBm = 20.80nW

+900kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力：10.21dBm(=10.5mW)+9dB-66.48dBc = -47.27dBm = 18.75nW

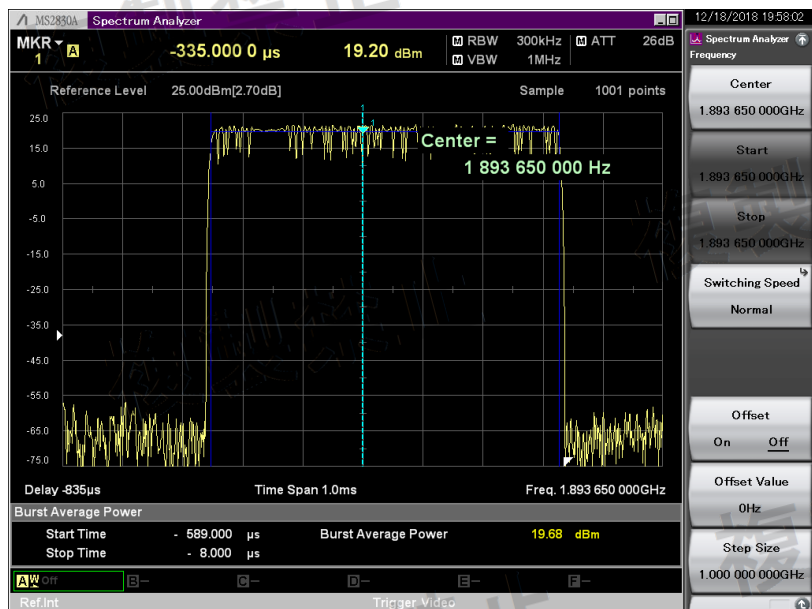
よって、±600kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力は **67.61nW(MAX)**、
±900kHz 離調の隣接チャネル漏洩電力は **20.80nW(MAX)**

測定波形(常圧)

③スプリアス発射又は不要発射の強度

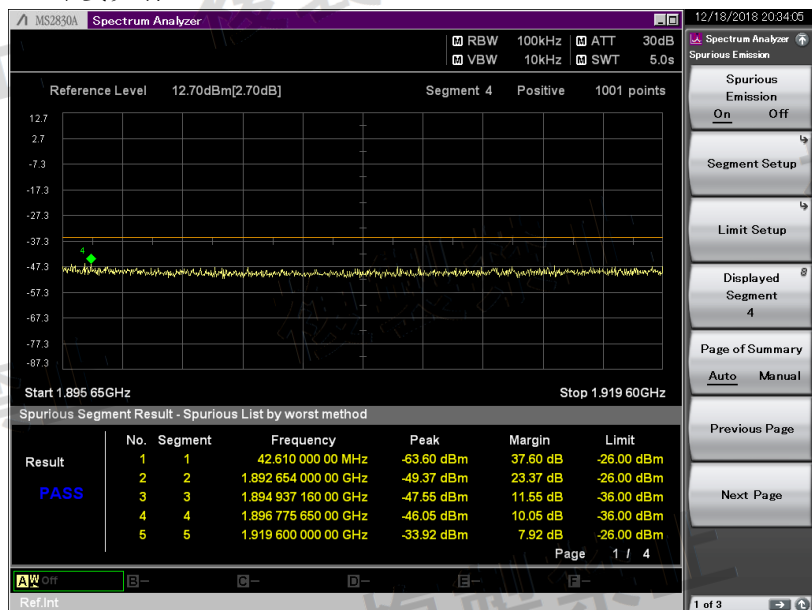
試験周波数：1893.65 MHz

- 搬送波の振幅波形(掃引周波数幅：0Hz)



- 不要発射の探索結果

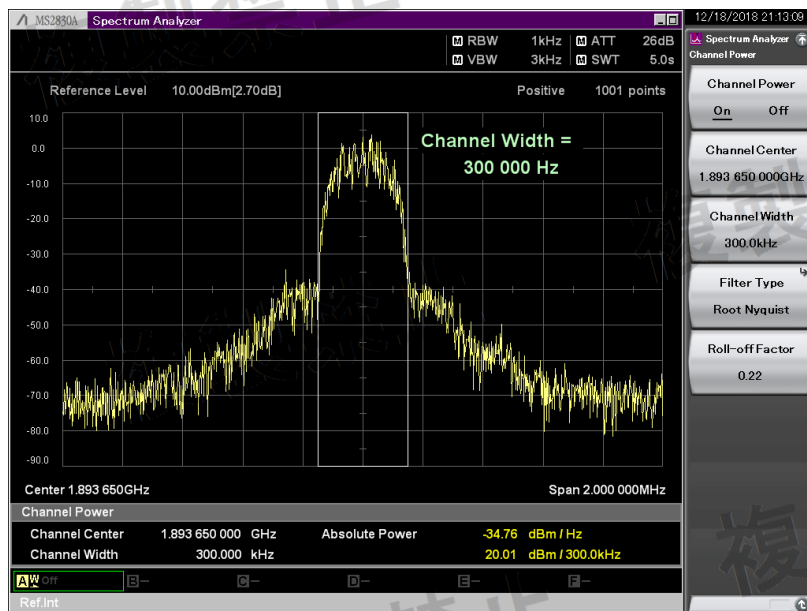
<不要発射 30MHz~10GHz>



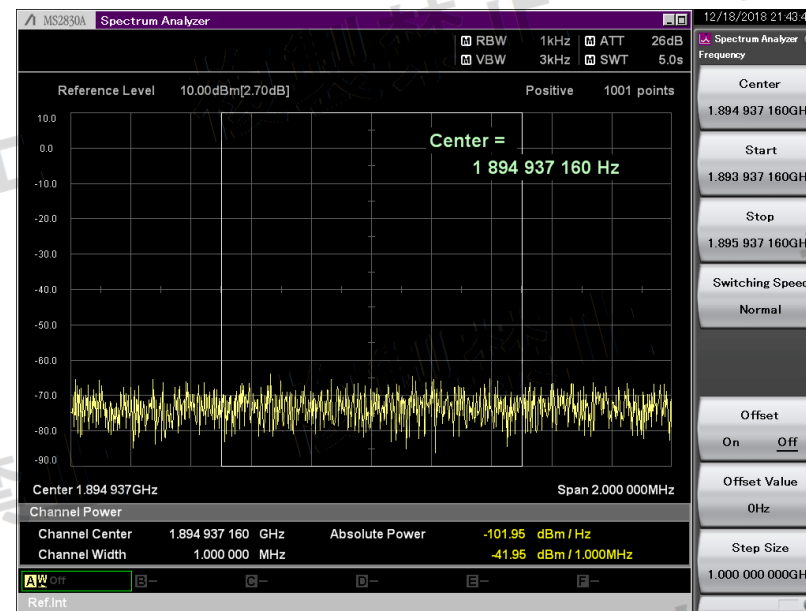
※不要発射の探索結果はSegment4の画像だが、他のSegment1,2,3,5についても、RBW/VBWを各無線区間ごとに設定し、測定している。Segment1,2,3,5の測定結果は画像下部のResultに表示されている為、Segment1,2,3,5の画像は省略する。

狭帯域デジタルコードレス帯域内の搬送波±996kHzを除く、搬送波±2MHzで探索した不要発射が-47.55dBm@1894.937MHzであり(Segment 3)、規格+15dB以上のマージンを持たない為、詳細測定(隣接チャネル漏洩電力と同様の測定)を行った。

・搬送波の振幅波形(掃引周波数幅：300kHz)



・不要発射(掃引周波数幅：1MHz)



よって、搬送波(掃引周波数幅：300kHz)と不要発射の電力比は、 $20.01\text{dBm} - (-41.95\text{dBm}) = 61.96\text{dBc}$

予め測定した空中線電力に+9dB(8倍)を加えた値から、上記の電力比を引いてnW表示とすると以下となる。

$10.04\text{dBm}(10.1\text{mW}) + 9\text{dB} - 61.96\text{dBc} = -42.92\text{dBm} = 51.05\text{nW}$

狭帯域デジタルコードレス帯域内の不要発射ではこの値が最も大きい為、帯域内不要発射は **51.05nW(MAX)**である。

狭帯域デジタルコードレス帯域外の不要発射は、探索結果より、 $-33.92\text{dBm}@1919.600\text{MHz}$ が最大である(Segment 5)。

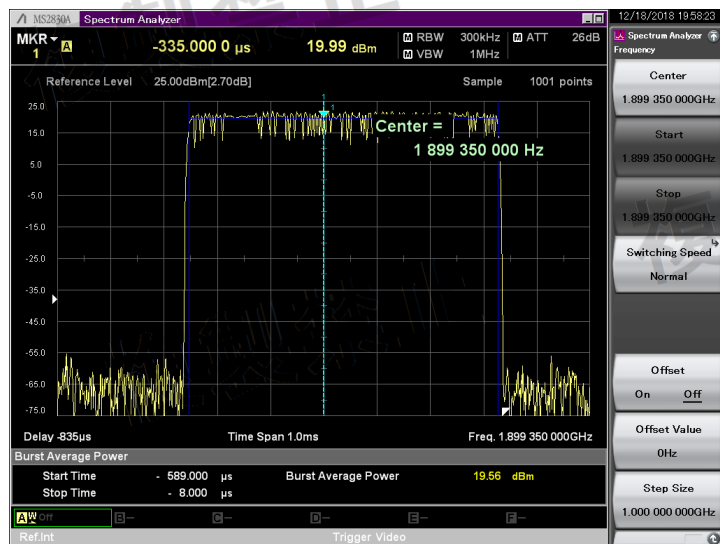
よって、帯域外不要発射は **405.51nW (MAX)**である。

測定波形(常圧)

③ｽﾌﾟﾘｱｽ発射又は不要発射の強度

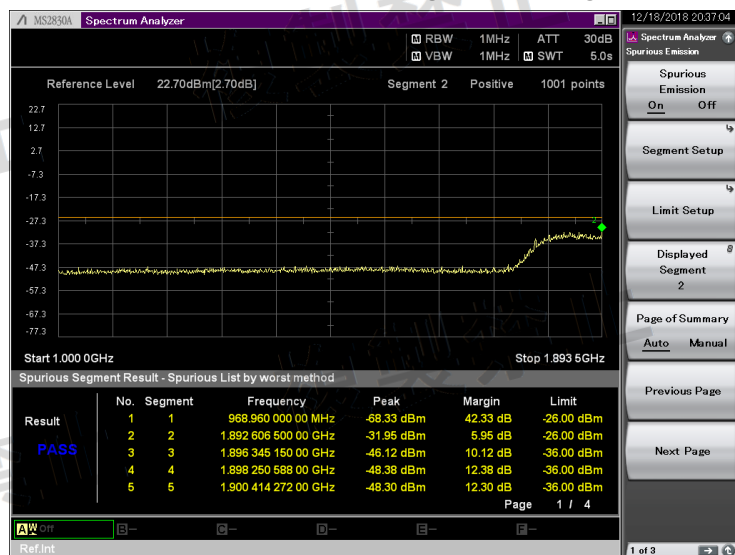
試験周波数：1899.35 MHz

- ・搬送波の振幅波形(掃引周波数幅：0Hz)

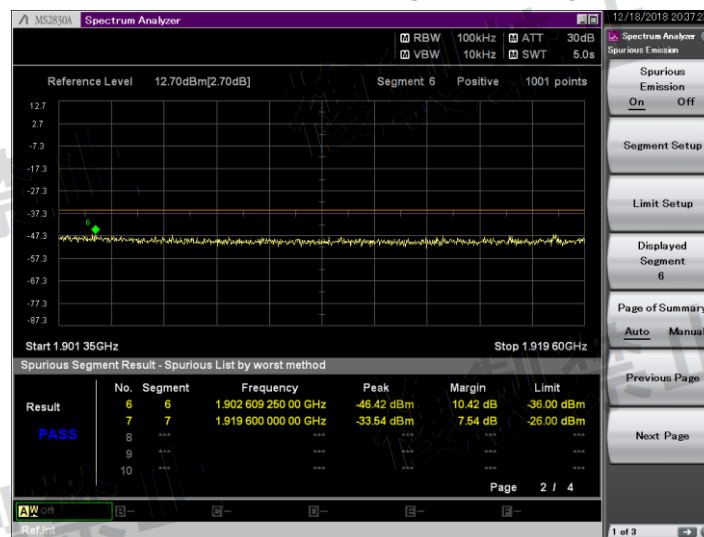


- ・不要発射の探索結果

<不要発射 30MHz~10GHz(Segment1~Segment5)>



<不要発射 30MHz~10GHz(Segment6~Segment7)>

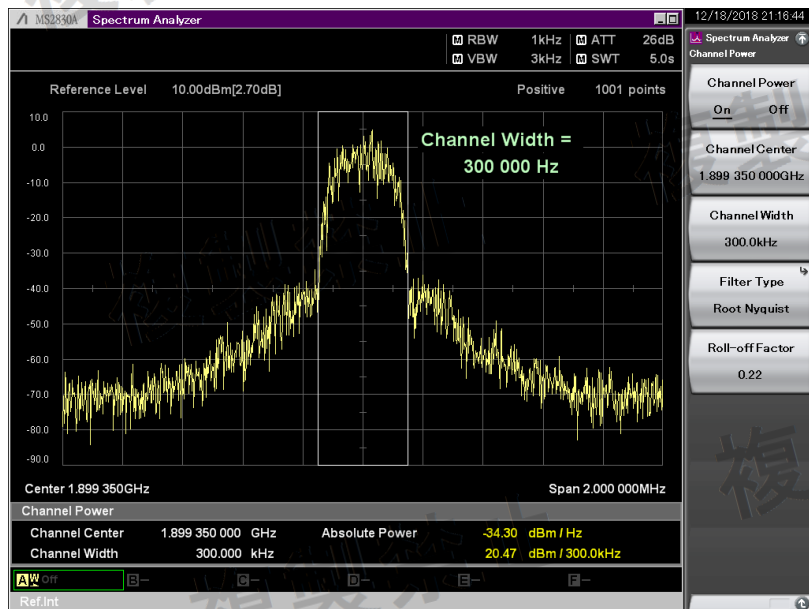


※不要発射の探索結果は Segment2,6 の画像だが、他の Segment1,3,4,5,7 についても、RBW/VBW を各無線区間ごとに設定し、測定している。Segment1,3,4,5,7 の測定結果は画像下部の Result にピーク電力、及び周波数で表示されている為、Segment1,3,4,5,7 の画像は省略する。

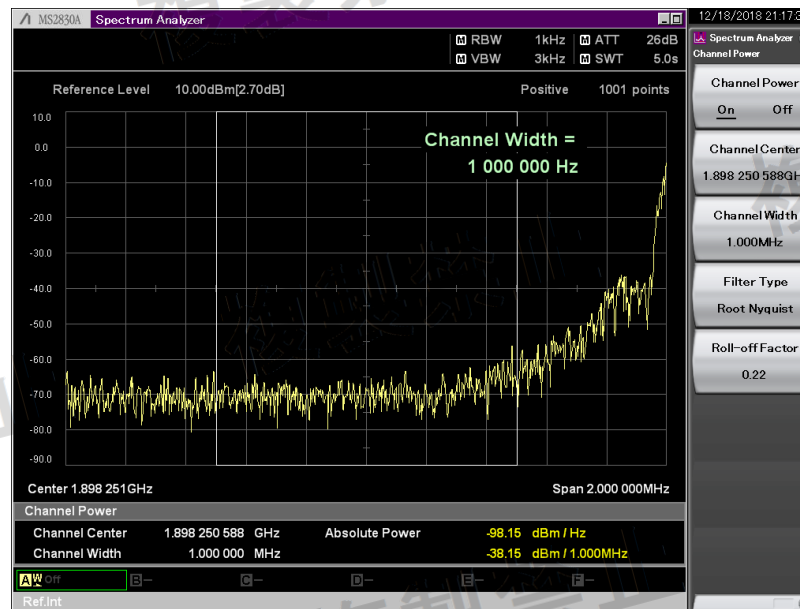
狭帯域デジタルコードレス帯域内の搬送波±996kHzを除く、搬送波±2MHzで探索した不要発射が、
－側で-48.38dBm@1898.251MHz (Segment 4)、＋側で-48.30dBm@1900.414MHz (Segment 5)であり、
規格+15dB以上のマージンを持たない為、詳細測定(隣接チャネル漏洩電力と同様の測定)を行った。

① 一側(搬送波-2MHz～搬送波-996kHz)

- ・搬送波の振幅波形(掃引周波数幅：300kHz)



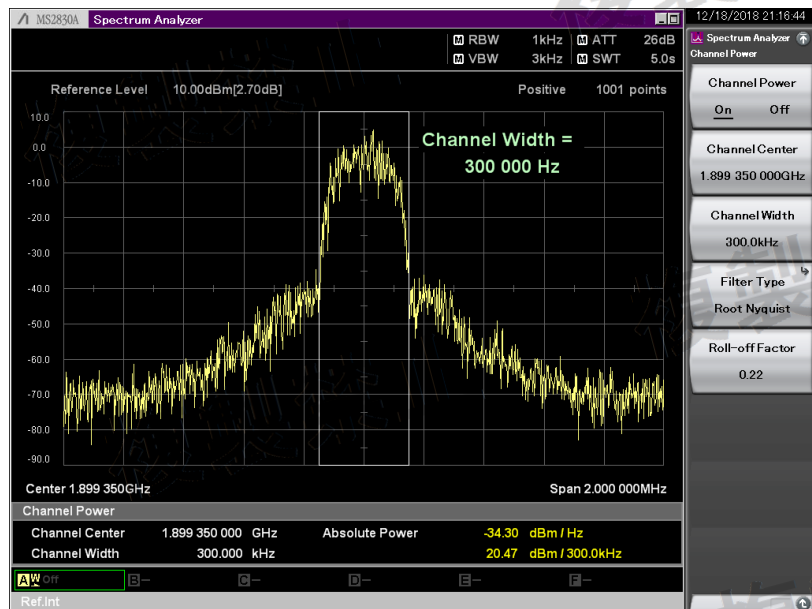
- ・不要発射(掃引周波数幅：1MHz)



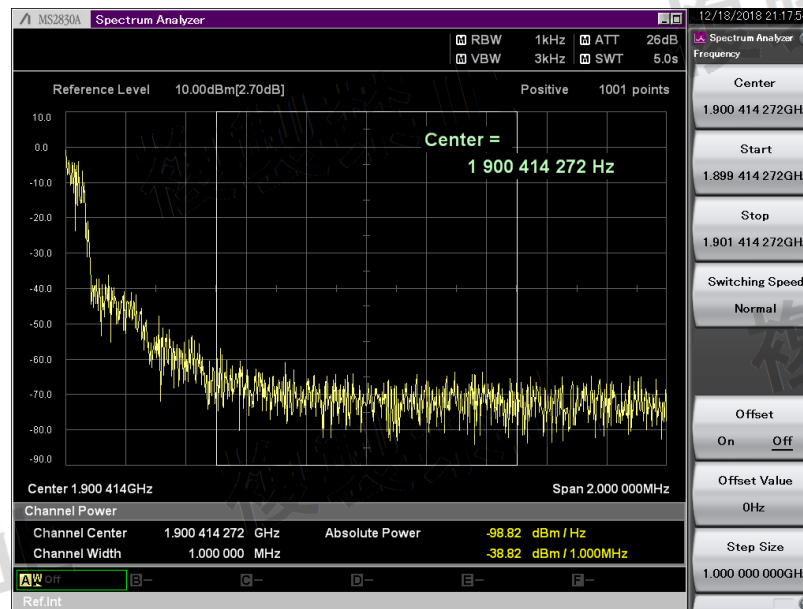
よって、搬送波(掃引周波数幅：300kHz)と不要発射の電力比は、 $20.47\text{dBm} - (-38.15\text{dBm}) = 58.62\text{dBc}$
予め測定した空中線電力に+9dB(8倍)を加えた値から、上記の電力比を引いてnW表示とすると以下となる。
 $10.13\text{dBm} (=10.3\text{mW}) + 9\text{dB} - 58.62\text{dBc} = -39.49\text{dBm} = 112.46\text{nW}$

②+側(搬送波+996kHz～搬送波+2MHz)

・搬送波の振幅波形(掃引周波数幅：300kHz)



・不要発射(掃引周波数幅：1MHz)



よって、搬送波(掃引周波数幅：300kHz)と不要発射の電力比は、 $20.47\text{dBm} - (-38.82\text{dBm}) = 59.29\text{dBc}$

予め測定した空中線電力に+9dB(8倍)を加えた値から、上記の電力比を引いて nW 表示とすると以下となる。

$10.13\text{dBm}(=10.3\text{mW}) + 9\text{dB} - 59.29\text{dBc} = -40.16\text{dBm} = 96.38\text{nW}$

狭帯域デジタルコードレス帯域内の不要発射は、上記①(搬送波+2MHz～搬送波-996kHz)の値が最も大きい為、帯域内不要発射は **112.46nW(MAX)**である。

狭帯域デジタルコードレス帯域外の不要発射は、探索結果より、 $-31.95\text{dBm}@1892.607\text{MHz}$ が最大である(Segment 2)。

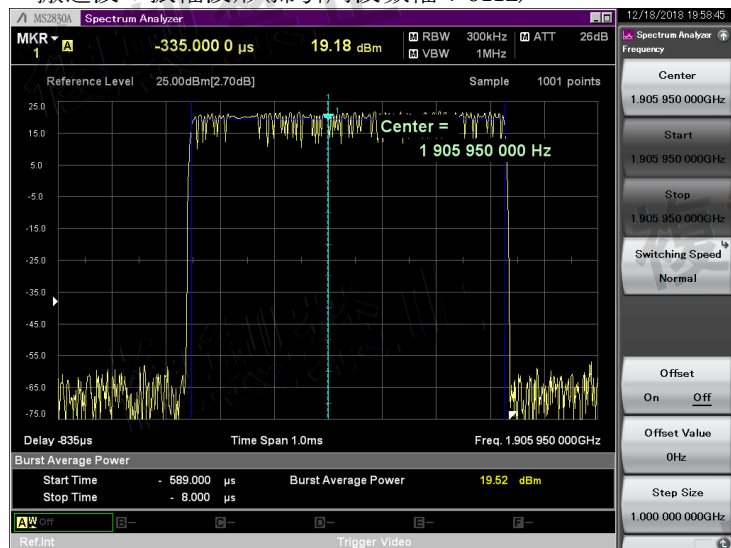
よって、帯域外不要発射は **638.26nW (MAX)**である。

測定波形(常圧)

③スプリアス発射又は不要発射の強度

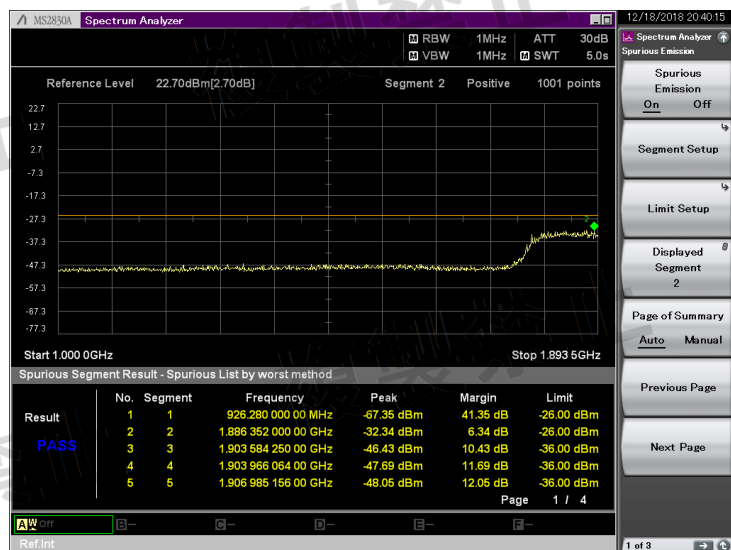
試験周波数：1905.95 MHz

・搬送波の振幅波形(掃引周波数幅：0Hz)

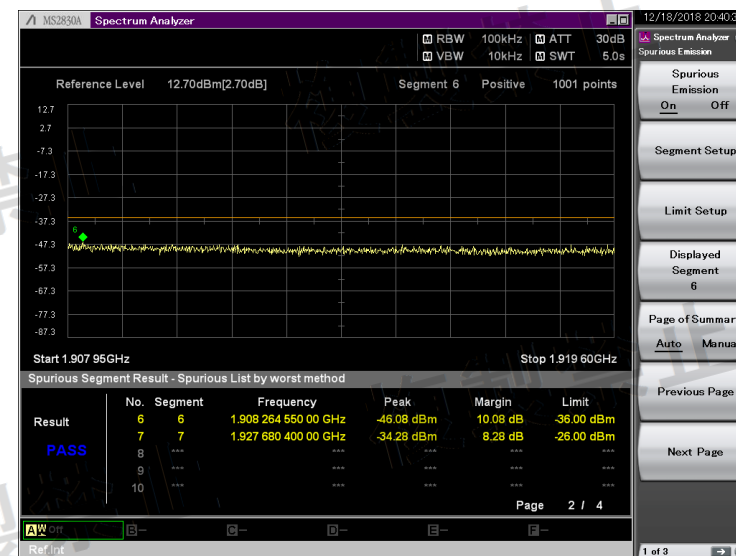


・不要発射の探索結果

<不要発射 30MHz~10GHz(Segment1~Segment5)>



<不要発射 30MHz~10GHz(Segment6~Segment7)>

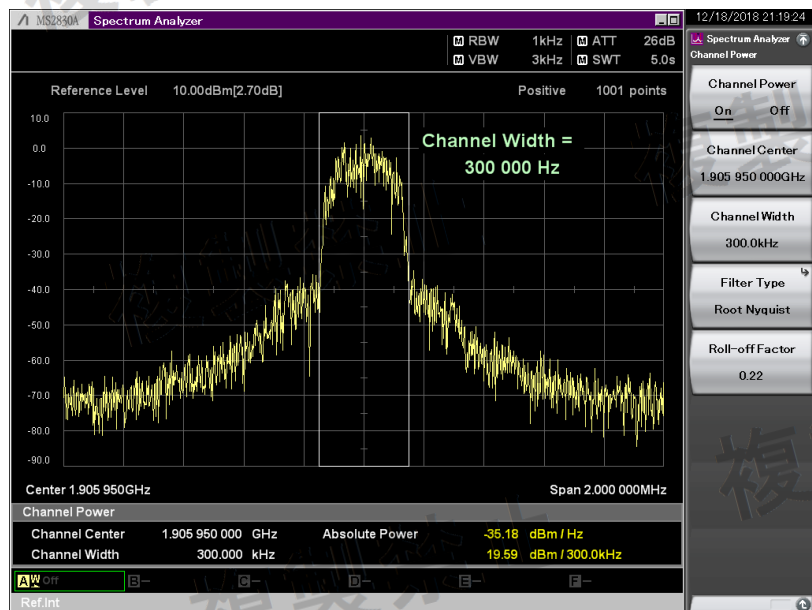


※不要発射の探索結果は Segment2,6 の画像だが、他の Segment1,3,4,5,7 についても、RBW/VBW を無線区間毎に設定し、測定している。Segment1,3,4,5,7 の測定結果は画像下部の Result にピーク電力、及び周波数で表示されている為、Segment1,3,4,5,7 の画像は省略する。

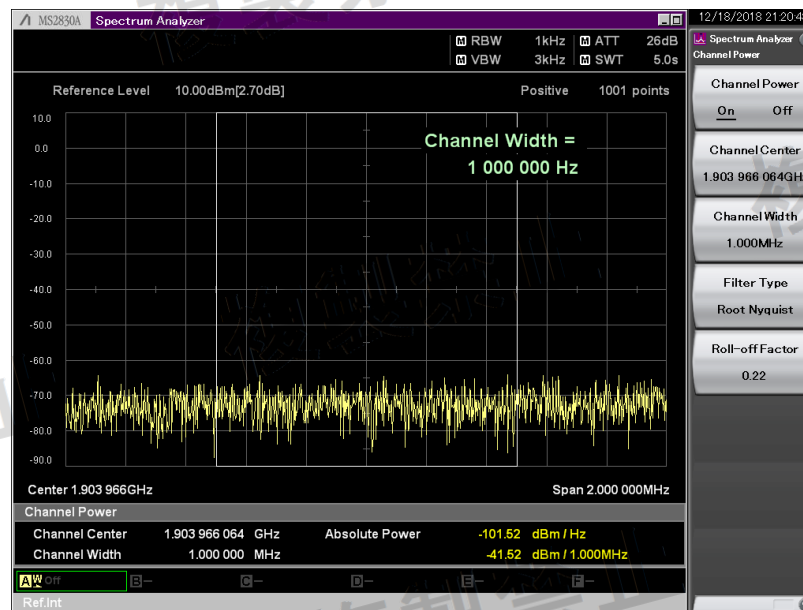
狭帯域デジタルコードレス帯域内の搬送波±996kHzを除く、搬送波±2MHzで探索した不要発射が、
一側で-47.69dBm@1903.966MHz (Segment 4)、+側で-48.05dBm@1906.985MHz (Segment 5)であり、
規格+15dB以上のマージンを持たない為、詳細測定(隣接チャネル漏洩電力と同様の測定)を行った。

①一側(搬送波-2MHz～搬送波-996kHz)

- ・搬送波の振幅波形(掃引周波数幅：300kHz)



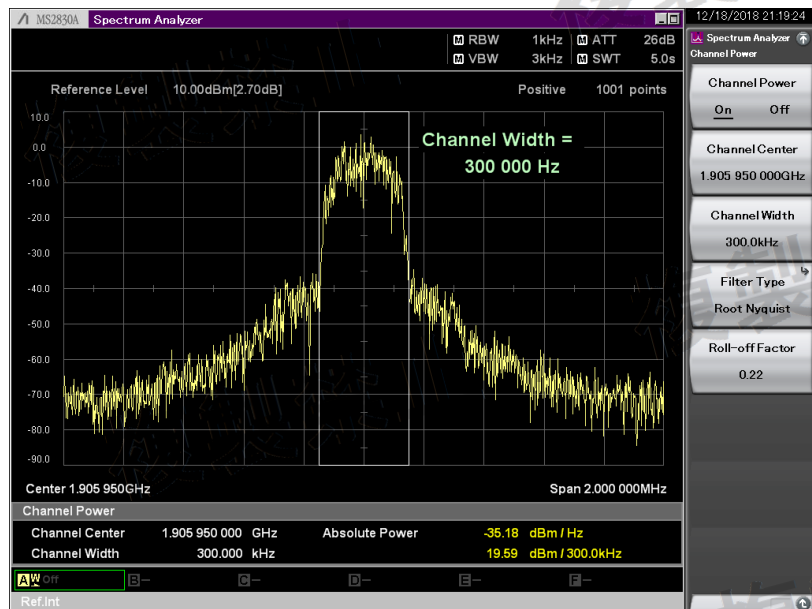
- ・不要発射(掃引周波数幅：1MHz)



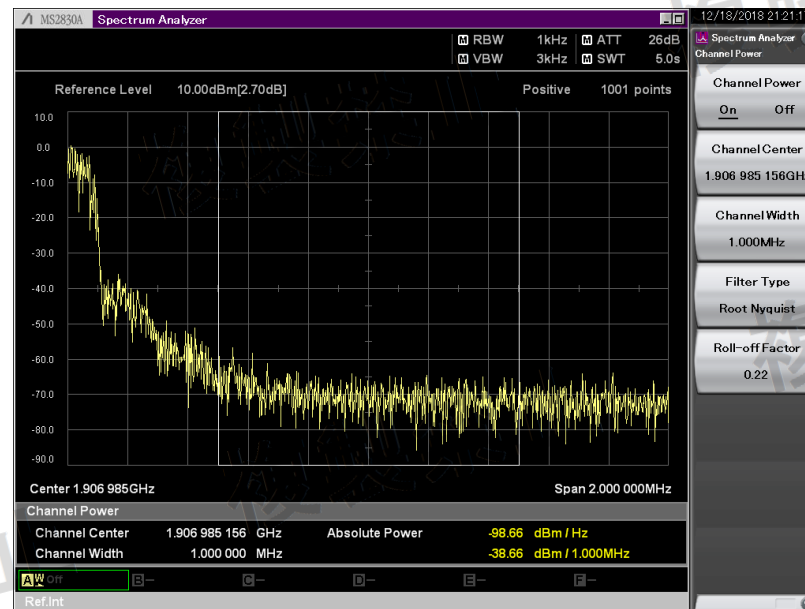
よって、搬送波(掃引周波数幅：300kHz)と不要発射の電力比は、 $19.59\text{dBm} - (-41.52\text{dBm}) = 61.11\text{dBc}$
予め測定した空中線電力に+9dB(8倍)を加えた値から、上記の電力比を引いてnW表示とすると以下となる。
 $10.21\text{dBm}(=10.5\text{mW}) + 9\text{dB} - 61.11\text{dBc} = -41.90\text{dBm} = 64.57\text{nW}$

②+側(搬送波+996kHz～搬送波+2MHz)

・搬送波の振幅波形(掃引周波数幅：300kHz)



・不要発射(掃引周波数幅：1MHz)



よって、搬送波(掃引周波数幅：300kHz)と不要発射の電力比は、 $19.59\text{dBm} - (-38.66\text{dBm}) = 58.25\text{dBc}$

予め測定した空中線電力に+9dB(8倍)を加えた値から、上記の電力比を引いて nW 表示とすると以下となる。

$$10.21\text{dBm}(=10.5\text{mW}) + 9\text{dB} - 58.25\text{dBc} = -39.04\text{dBm} = 124.74\text{nW}$$

狭帯域デジタルコードレス帯域内の不要発射は、上記②(搬送波+996kHz～搬送波+2MHz)の値が最も大きい為、帯域内不要発射は **124.74nW(MAX)**である。

狭帯域デジタルコードレス帯域外の不要発射は、探索結果より、 $-32.34\text{dBm}@1886.352\text{MHz}$ が最大である(Segment 2)。

よって、帯域外不要発射は **583.45nW (MAX)**である。